

## 【目次】

- ・すみだの教育の一層の充実を目ざして - 平成16年度教育予算決まる -
- ・特別支援教育の体制づくりを進めています - 心身障害教育を大きく改革 -
- ・小学生全員に防犯ブザーを貸与します
- ・ぜひご覧ください - 区立小中学校の学校公開 -
- ・生涯学習課のホームページを開設しました!
- ・佐多稲子・舟橋聖一・堀辰雄・幸田文 生誕100周年記念事業を開催します
- ・教育委員会の動き(1月~3月)

## すみだの教育の一層の充実を目ざして - 平成16年度教育予算決まる -

教育委員会では、墨田区の重要施策のひとつである「明日のすみだを担う人づくり」への取り組みを重点に、平成16年度の予算編成を行いました。

また、頻発する犯罪被害から子どもたちを守るための防犯施策についても予算を配分し、児童の登下校時の安全対策を強化しました。

平成16年度教育予算の総額は、86億458万3千円となり、墨田区一般会計歳出予算929億4500万円に占める割合は9.3%になります。

平成16年度に実施する主な事業を紹介します。

### ☞ 両国中学校の改築

両国中学校は、両国駅周辺地区の拠点整備に位置づけられた地区内にあり、この整備に併せて校舎改築及び周辺整備を行います。校舎改築にあたっては、最近の教育環境や社会状況の変化から様々な学習環境に対応した教育施設の整備を行うこととし、ハード・ソフト両面から新たな学校づくりを進めていきます。平成16年度は、基本設計及び実施設計等を行います。(6,974万5千円)

### ☞ 普通教室の冷房化

都市部におけるヒートアイランド現象の進行により、夏休み期間に限らず長期間にわたり学校の教室が高温化して、授業の効率さが下がるという弊害が生じています。さらに補習授業の実施や、地域の方々への学校施設の開放など夏休み期間中の教室利用などの機会が増えています。こうした現状を踏まえ、全区立小中学校の普通教室の冷房化を行います。(7,920万円)

### ☞ 区立学校適正配置の推進

児童・生徒数の減少する中、適正な学校規模を維持し、子どもたちによりよい学習環境を提供するため、平成9年に策定した「墨田区立学校適正配置実施計画」に基づき、区立学校の適正配置を推進しています。この実施計画の第3順位グループとして位置づけている「隅田小学校・隅田第二小学校」の統合について、地域・学校関係者との具体的な協議を重ね、平成17年4月の開校に向け準備を進めていきます。

(6,251万4千円)

また、当初の適正配置実施計画策定後6年が経過し、この間の児童・生徒数の減少や学校教育を取り巻く環境の変化に対応するため、適正配置の考え方や方策について、改めて全体的に検討する必要があります。16年度に審議会を設置して検討を進めていきます。(134万4千円)

### ☞ 小学生への防犯ブザーの貸与

近年の社会状況の変化とともに、子どもたちに係る犯罪が多発する傾向にあり、治安の悪化が懸念されています。そこで、登下校時や外出時の安全を図るため、いざというときに大音量を発する防犯ブザーを小学生全員に貸与します。(498万8千円)

### ☞ 開発的学力向上プロジェクトの実施

児童・生徒の基本的な学力を確実に定着させていくことは、学校教育の重要な課題です。そこで、墨田区の児童・生徒の学習状況を把握するため、小中全学年を対象に区で統一した「学力テスト」を実施します。その結果を踏まえて、各学校が自校の指導方法を見直すとともに、実態に応じた具体的な対応のため

に役立てていきます。( 1 , 5 4 5 万円)

#### ☞ 障害学級の開設

ここ数年、小学校の「心身障害学級」へ入級する児童が増加しています。そこで、きめ細かい指導を必要とする児童の学習環境を整備するために北部地域の小学校1校(第一寺島小学校)に新たに「心身障害学級」を開設します。

また、小学校の「情緒障害学級」卒業生をフォローする体制整備のため、中学生を対象とした「情緒障害学級」(吾孺第一中学校内)を開設します。( 2 , 8 4 9 万 9 千円)

#### ☞ スクールサポート事業の推進

墨田区では、昨年9月に第三寺島小学校内に「スクーリング・サポート・センター」を開設し、学校生活に順応することが難しい児童・生徒への対応を行っています。その役割を強化するため、機能を一層充実させた「すみだスクールサポートセンター」を発足し、学校・家庭・関係機関との連携の拠点として、学習・生活面の指導及び教育相談等の支援を行っています。( 5 4 6 万 2 千円)

#### ☞ PFI手法導入による「総合体育館」の建設

現在の墨田区体育館は、築後37年が経過し施設設備の老朽化が進んでいます。また、種目の多様化や利用者の増加などのために施設が手狭となっています。このような状況を解決するため、財政負担の軽減が期待できるPFI方式の導入を検討し、体育館改築の早期実現に向け、基本計画を策定します。

( 5 0 0 万円)

PFIとは、公共施設等の建設・維持管理・運営等を民間の資金・経営能力及び技術的能力を活用して行う手法をいいます。

#### ☞ ブックスタート事業

乳幼児期からの読書(読み聞かせ)は、家族のコミュニケーションを図るとともに、心身両面における健やかな発育を促し、豊かな創造力を鍛えることにつながります。その効果を体感してもらうため、平成15年度に展開した「おひざでえほん事業」を引き続き実施し、図書館職員が絵本を見せながら、おはなしをします。

また、平成16年度からは、乳児健診時に絵本を贈り、こどもの読書習慣を推進していきます。

( 1 1 2 万 6 千円)

#### ☞ 佐多稲子・舟橋聖一・堀辰雄・幸田文 生誕100年記念事業

墨田区は、江戸時代以降数多くの文人が生まれ育ち、数々の文芸作品に取り上げられてきた歴史があります。今年は、墨田に縁の深い作家の生誕100年という節目の年であることから彼らの偉業を紹介する記念事業を実施します。

( 1 2 万円)

### 特別支援教育の体制づくりを進めています - 心身障害教育を大きく改革 -

障害のある児童・生徒の教育の在り方について、大きな改革が進んでいます。

障害のある児童・生徒の教育は、戦後、学校教育法の成立以来「特殊教育」と呼ばれ、知的障害・聴覚障害・視覚障害などの障害の種類や程度等に応じた特殊学校や特殊学級において、専門的な教育を進めてきました。しかし、いくつかの障害を併せもつ子どもたちの増加や、学習障害(LD)や注意欠陥・多動性障害(ADHD)など新たな課題への対応が求められるようになり、また、障害のある人もない人も共に生きる社会を目指す「ノーマライゼーション」の考え方の進展もあり、近年、障害のある児童・生徒の教育の在り方が検討されてきました。

このような中、文部科学省は平成15年3月に答申された「今後の特別支援教育の在り方について」を踏まえ、従来の「特殊教育」から「特別支援教育」への転換に向けて、法改正や制度改革に取り組んでいます。並行して東京都教育委員会においても検討を重ね、平成15年12月に「これからの東京都の特別支援教育の在り方について」の最終報告が出されました。

## 特別支援教育とは

「特別支援教育」とは、障害のある児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行うことをいいます。子ども一人ひとりに作成する「個別の教育支援計画」に基づき、各学校では特別支援教育コーディネーターが中心となって、障害のある子どもの支援の在り方を学校を挙げて考えていく仕組みです。さらに教育、福祉、医療等が連携して、地域のネットワークを生かしながら教育を進めていきます。

答申では、従来の「盲・ろう・養護学校」を「特別支援学校」として一本化し、その中で専門分野の部門を充実する方向が示されています。また従来の「特殊学級(心身障害学級)」や「通級指導学級」を「特別支援教室」として位置付け、通常の学級に学籍を置きながら、必要な時間、特別支援教室で教育を受ける新しい制度が提案されています。

今後、関係法律の改正等の手続きを経て、実現される見通しとなっています。

## モデル事業の研究

東京都では、墨田区と稲城市が指定を受け、平成15、16年度の2年間にわたり、文部科学省の「特別支援教育推進体制モデル事業」の研究を進めています。そして、その研究成果を東京都や国に報告することになっています。

モデル事業のねらいは、障害のある児童・生徒に対する支援体制を各学校で確立するようにするもので、昨年墨田区の全小中学校に「校内委員会」を設置し、「特別支援教育コーディネーター」の教員を指名しました。

そして、体制づくりのためにモデル事業の期間中、LDやADHDの教育に詳しい専門家を巡回相談員として各学校に派遣し、学校における支援の在り方について協議し、教職員の理解を深めています。また、学校に学生スタッフを派遣するなど支援体制の検討も行っています。

巡回相談等の結果、支援の必要な子どもについての理解が深まり、学校を挙げて課題を解決することの重要性を確認しているところです。今後も具体的な支援の方法を検討し、支援体制づくりに努めてまいります。

**[問合せ]** 指導室 電話 5 6 0 8 - 6 3 0 7

## 小学生全員に防犯ブザーを貸与します - 子どもたちが犯罪に巻き込まれないために -

平成13年に起きた大阪府池田市の小学校で起きた児童殺傷事件を契機に、区ではさまざまな安全対策を講じてきました。小中学校・幼稚園の普通教室に非常ベルや、ボタンを押すと直ちに警視庁に通報される学校110番通報装置を設置したほか、来校者の確認の徹底や防犯ブザーの教員への配布、防犯訓練の実施などを行ってきました。

また学校外の安全対策では、地域の方々の協力のもとパトロールの実施や、万一のときに子どもたちが助けを求めることができる「すみだこどもの110番」事業を行っています。

しかし、最近、子どもの連れ去り事件や学校に不審者が侵入する事件などが多発していることから、テレビカメラ付きインターホンを全小中学校に設置した(3月)ほか、小学生全員に防犯ブザーを貸与することにしました(4月)。

防犯ブザーは、区立小学校に在籍する児童には学校を通じて配布します。

区立小学校以外に在籍する児童で貸与を希望される方は、下記にお申し込みください。

**[必要なもの]** 在住・年齢を確認できるもの **[受付]** 5月6日(月)から

**[申込み・問合せ]** 学務課学校事務担当(区役所11階) ☎ 5 6 0 8 - 6 3 0 3

子どもたちの安全を守るためには、学校での対応はもとより、地域や保護者の方々との連携が重要です。皆様のご協力をお願いします。

## ぜひご覧ください - 区立小中学校の学校公開 -

区立小中学校では地域に開かれた学校づくりを進めており、児童・生徒や保護者はもとより、地域の皆さんに学校を見ていただくために、全小中学校で学校公開を行います。通常の授業だけでなく、朝の学級活動の時間をはじめ、生徒会活動や部活動など、子どもの学校生活のありのままの姿にふれることができます。

また、17年度に学校選択制度は中学校が4年目を迎えます。この機会に多くの学校を訪問し、学校選択の参考にしてください。

**【とき・ところ】** 公開日程は墨田区教育委員会ホームページの「学校公開」のページをご覧ください。

時間はいずれも午前8時30分～午後3時40分 **【申込み】** 当日直接学校へ

**【問合せ】** 学務課学校事務担当 電話5608-6303

## 生涯学習課のホームページを開設しました！

生涯学習課では、区民の皆さんの文化・学習活動を支援する情報を提供するため、ホームページを開設しました。

成人を対象とする講座・イベントや社会教育関係団体を支援する事業、青少年関係事業、文化財保護・普及事業、青少年関係施設などの概要を掲載しています。また、すみだ生涯学習センターとすみだ郷土文化資料館のホームページにリンクしています。

これらの情報を活用し、充実した学習活動をしてみてはいかがでしょうか。

ホームページアドレス

<http://www.city.sumida.tokyo.jp/~manabi/>

**【問合せ】** 生涯学習課生涯学習推進担当 ☎5608-6309

## 佐多稲子・舟橋聖一・堀辰雄・幸田文 生誕100年記念事業を開催します

墨田区とゆかりのある文学者 佐多稲子・舟橋聖一・堀辰雄・幸田文の生誕100年記念事業として、次の催しを開催します。(詳細は後日、区のお知らせに掲載します。)

### ■展示会

展示期間	7月8日(木)～7月28日(水)	6月5日(土)～8月1日(日)	6月8日(火)～8月1日(日)
会場	すみだリバーサイドホール	すみだ郷土文化資料館	緑図書館
内容	直筆原稿、初版本、写真などを展示します。		

### 講演会

日程	6月18日(金)	7月2日(金)	7月16日(金)	9月5日(日)
会場	区役所131会議室(13階)			すみだ中小企業センター
内容	「向島時代の佐多稲子の暮らしと文学」 講師 矢澤美佐紀氏	「堀辰雄とすみだ」 講師 池内輝雄氏	「本所生まれの作家舟橋聖一の人と文学」 講師 伊藤信夫氏 秋元 藍氏	「幸田文と隅田川」 講師 金井景子氏

## 教育委員会の動き(1月～3月)

教育委員会は、5人の委員で組織され、教育行政の基本的な施策の決定と重要な案件の処理を行っています。会議は、原則として毎月第1及び第3木曜日に定例会を、また必要に応じて臨時会を開催します。

1月～3月は、定例会を6回開催し、28件の議案を審議し、9件の報告を受けました。

主な議案	両国屋内プール条例施行規則の一部改正について 墨田区立学校の管理運営規則の一部改正について 教科用図書採択の方針について
主な報告	インフルエンザ集団発生による臨時休業について 学校年二学期制に伴う学期及び休業日の変更について